
あいうえお作文

ひのた

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あいうえお作文

【Nコード】

N5159R

【作者名】

ひのた

【あらすじ】

先輩（ ）と後輩（ ）が送る日常会話です。

「あ」から「ん」まで、文頭を五十音順に始めます。

それでは、「あ」から始まる物語をお楽しみください。

（前書き）

先輩（ ）と後輩（ ）が送る日常会話。人物設定はあとがきにて。

会話の文頭が「あ」から「ん」の五十音順としています。地の文だけは除外しています。なお、濁点と半濁点がついた文字は省略しています。また、「を」の文字を「お」としています（「を」から始まる文字は古語でみかけますが、現代では助詞の「を」しかないため）。

それでは、「あ」から始まる物語をお楽しみください。

「ああ。ヒマだよ後輩くん」

「いきなり何ですか先輩？」

「うん？ 会話の始まりは感嘆詞からと決まっているだろう？」

「えー、決まってるって言われまして」

「おやおや分かっていないね後輩くん」

先輩がニヤリと笑みを浮かべる。

「かわってますね先輩は」

「きみよりはマシだと思うがね」

「くちが減らないって言われませんか？」

「けっこうなことじゃないか。話すことはすばらしいことだよ」

「こっちの身にもなってくださいよ！」

まったく先輩は。

「さて、何を話そうか」

「しずかにしてください。と言っても聞かないんですよね」

「すきと嫌いについてはどうかな？」

「せいぜい一人でしゃべってください」

「それは手厳しい」

先輩はクスクスと笑いながら話を続ける。

「たのしそうですね」

「ちがうよ。嬉しいんだ。『楽』じゃなくて『喜』だね」

「つまり？」

「てつがくてきな話になるけど聞かい？そもそも人間が持つ感情を『喜』『怒』『哀』『楽』と表現するのはなぜだと思う？『憎

悪』『恐怖』も人間の感情なんだよ？」

「とりあえず落ち着いてください!」
熱くなると先輩は語りだすんだよなあ。

「なにかな? 私はいつも冷静だよ後輩くん」

「にんげんって言い出したところから熱くなってましたが」

「ぬう。そこは先輩を立てるべきだよ」

「ねことは寝てからどうぞ」

「のぞみ通り寝てあげよう」

机の正面に座っていた先輩がぼくの横に座り、膝をぽんぽんと叩いてきた。

「はい? なんですか」

「ひざまくらだよ」

「ふっふふふざけないでくださいよ!」

「へえ。あせった顔も面白いね」

「ほかの人にやってもらってください!」

心臓がバクバクする。先輩とこの部室で二人きりはこれ以上きつい。みんなカムバツク!

「まあまあ減るもんじゃないし、いいじゃないか」

「みんなまだですかね」

「む? 現実逃避かい」

「めめっ滅相もない」

「もういいよ」

先輩はふうとため息をついて元の席、つまり僕の正面に座った。

「やめてくださいよ僕をからかうのは。恥ずかしいんですから」

「ゆうげんじつこつが私のモットーだ。後輩くんで愉快的な毎日を送る。良いだろう?」

「よくないですよ!」?

先輩。「と」じゃなくて「で」と言う所に意味はあるんですか？
涙が出そうですよ。

「らしくないな。今日の私は」

「りきせつしてたじゃないですか。いつもどおり」

「るすばんを任された子供のように落ち着かない気分なんだよ」

「れい（例）が解りにくいです」

「ろうほうを期待している」

朗報？ 英検の結果でも届くのかな。そんなことを考えていると、先輩が机から身を乗り出して、こちらに迫ってきた。顔が近いですよ先輩。

「わっ！ どうしたんですか」

「をそこ（男）ならもつと積極的に来てくれると嬉しいんだがね、言わしてもらおう。私と付き合ってはもらえないか、後輩くん？」

「ん！？」

突然すぎて言葉に詰まってしまった僕はバカだと思う。答えは決まってるじゃないか。告白してきた先輩を見つめ、僕は返事をした。

（後書き）

ここまで読んでいただきありがとうございます。まずは読者のみなさまに感謝を、それでは、後書きです。

ふいに思いついて書いてみたのですが、これがなかなか難しい。特に「な」行と「ら」行！ ボキャブラリーの少ない私では無謀だったか！！ そんなことより、先輩（ ）後輩（ ）の設定がなさ過ぎて、話がめちゃくちゃだったかもしれない。

ちよつと後輩と先輩出てこいや。

「あれ？ なんですか」

「いい話じゃなさそうだね」

まず、作者として君たちに言いたいことがあります。

「あいあい」

「いきなりだね」

なんで告白してんの？

「あゝそれ言っちゃいますか」

「いいじゃないか別に」

作者としてはもうちょい延ばして二話目につなげるつもりだったんだけどね。

「あつ！ つなげるつもりが面倒くさくなって投げたと」

「いちばんだめなヤツだな」

ちよつとそれ言わないでよ！ それよりも何で告白したかなんだよ。

「あほな作者のせいで、僕らの気持ちがすっ飛んでますからね」
「いつとかないと、私たちの気持ちが伝わらないんだがね。バカか作者は」

ちよっ、アホだバカだと罵らないでよ。作者泣くよ？

「あはは、冗談ですよ。作者グツジョブです」

「いい気味なんじゃないか？」

後輩やさしい。先輩ヒドイっ！

「遊ぶのはこれくらいにして、本題に入りましょうよ先輩」

「いい感じで面白かったんだがな」

作者遊ばれたー！。って、本題ですね。何で告白したのかだね。

「あれですよ。かくかくしかじかな感じです」

「いしんでんしん（以心伝心）で伝わらないかな」

作者にまる投げだよコイツら。

こほん、では先輩後輩に変わりました、設定をつらつらと書いていきます。

先輩

学年：高校2年生

部活：文芸部

備考：後輩と話していると、自分が嬉しいことに気がついた。しかし、その抱く感情が「好き」なのか「恋」なのか「愛」なのかよくわからないので、保留。途中、後輩が自分に好意を向けていることに気がつくが、自分の感情がよくわからないので、気にしないそぶりを見せていた。なかなか告白しない後輩にアタック？的な行動をとるが、恥ずかしがったり拒んだりでなかなか告白してこないの

で、自分から告白。

後輩

学年：高校1年生

部活：文芸部

備考：先輩の作品（文集）に憧れて文芸部に入部した。先輩の作
る独特の口調や性格に魅かれて好意をよせるようになった。しかし、
照れ屋のため、なかなかその好意が表に出ない。だが、他の部員や
先輩にはバレている模様。今回、部員がなかなか帰ってこなかった
のも、先輩と後輩を二人きりにしようという部員たちの企たくらみ
による。

つまり、両想いであつたということだね。

「あいあい」

「いいことじゃないか」

それをふまえて読み返してみると面白いかもしれません。それで
は最後に、

「『あ』と」

「『い』で始まる」

あいあい作文お気づきになられましたでしょうか？ 最後までお
付き合いいただきありがとうございます。感想待ってます。

「あとがきでしなくても、よかったんじゃないですか？」
ちよっ後輩！ いい感じで締めたのに！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5159r/>

あいうえお作文

2011年10月7日23時31分発行